

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

情報政策課長 友井 泰範

電話番号

0852-22-6339

事務事業の名称	IT利活用促進事業	
目的	(1) 対象	県民、県内企業
	(2) 意図	ICT化の意識を高め、日常生活等において、積極的にICTを活用してもらう。
事業概要	○地域の情報リテラシー向上事業 インターネット利用者の拡大を図るために、講習会の開催など地域で継続的に学習できる環境の整備を行う。 ○「島根あいてい達者」知事表彰 IT活用の重要性を周知し、高齢者がITにチャレンジする「元気」と「勇氣」をもってもらうために、IT活用に積極的に取り組む高齢者に知事表彰を行う。 ○オープンデータ普及促進事業 県が管理するオープンデータの利活用を促進するため、カタログサイトでのデータ公開や普及セミナーを行う。	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	インターネット利用率（個人）	目標値	77.5	79.5	81.5	83.0	%
	式・定義	総務省通信利用動向調査の数値（毎年7月公表）	取組目標値					
			実績値	76.3				達成率
2	指標名		目標値					
	式・定義		取組目標値					
			実績値					達成率

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	8,693	12,572
うち一般財源 (千円)	8,693	12,472

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- インターネット利用率は、76.3%（H26年度は75.6%）であり、全国平均の83.0%を下回っている。
- 主に中高年層（50才以上）の情報リテラシー向上を図るため、益田市、津和野町、知夫村、隠岐の島町の4地域で、タブレット端末を利用したインターネット講習（ITリーダー養成講習、初心者向け基礎講習）を実施し、合計182人が受講した。また、インターネットに関する相談会や体験会も実施した。
- あいてい達者知事表彰では応募者7名（個人6名、団体1名）のうち、個人5名の方を知事表彰した。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- インターネット利用率は、76.3%（前年度は75.6%）であり、全国平均の83.0%を下回っているが、増加してきている。
- 主に中高年層の情報リテラシー向上を図るため、益田市、津和野町、知夫村、隠岐の島町の4地域でタブレット端末を利用したインターネットの初心者向け講習を行い、合計148人が受講し、H27年度から開始したITリーダー養成講習には、同地域で合計34名が受講した。
- あいてい達者知事表彰では応募者7名（個人6名、団体1名）のうち、個人5名の方を知事表彰した。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
  - インターネット利用率は前年に比べ上昇しているものの、全国平均（82.8%）を下回っている。
  - あいてい達者の受賞者は松江市や出雲市等の都市部に集中しており、隠岐地域や西部地域等で少ないなど地域に偏りがある。
- ②困っている状況が発生している「原因」
  - インターネット利用率を世代別に見ると20代から50代までは85%を超えているが、60代では56%であり、高齢者層の利用率が低い（H27年度県政世論調査）。
  - あいてい達者の表彰対象者となる地域で活動を行っている個人や団体に対して、表彰に関する周知がまだ十分に行き届いていない。
- ③原因を解消するための「課題」
  - 高齢者にインターネットを利用してもらうためには、情報リテラシーの向上を図る必要がある。
  - あいてい達者については、これまで受賞者が少ない地域において、応募者の掘り起こしを図る必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 高齢者のインターネットの利活用を広げるために、民間によるパソコン教室があまりない地域において、ICT端末の操作方法やインターネット等に関することを身近な地域で継続的に学習できる環境の整備に取り組む。具体的には、初心者にインターネット等に関することを指導できる「ITリーダー」の養成を継続して行う。
- あいてい達者については、これまで受賞者が少ない地域において、重点的にPRすることにより応募者の掘り起こしを行う。また、受賞者の該当市町村や地域の公民館等に周知することにより、受賞者の活動の場を広げたり、周囲の高齢者のチャレンジする気持ちを奮い起こす。

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）